

ヒノキ実生コンテナ苗等による低コスト再造林技術の開発

試験地概況

(1) 三光山試験地

岡山県新見市三光山国有林 591 林班り小班 伐採前 スギ・ヒノキ林等
平成 22 年、23 年にかけて伐採 面積 約 9ha 標高 約 700m～900m

(2) 三室山試験地

岡山県新見市三室山国有林 702 林班い 1 小班 伐採前 スギ林・ヒノキ林等
全体面積 6.52ha 標高 約 790m～950m

試験目的と設定

ヒノキが卓越する近畿中国地域の人工林での効率的な更新を進めるために、低コストでのヒノキ再造林技術の開発を目標とする。そのために、伐採後に無地拵えによる一貫作業による即時植栽の実施と、時期を限定しない通年に渡る伐採、植栽作業に対応する植栽素材としてのコンテナ苗等の実効性と再造林におけるコスト低減効果を検証する。

- 1) 季節別の植栽 夏季植栽(8月)、秋季植栽(10月)、春季植栽(5月)
- 2) 植栽資材 コンテナ苗(150cc 実生)、セラミック苗(挿木)、普通苗(実生)
- 3) 植栽方法 密度 2100 本/ha 苗間 約 2.2m 方形植え
- 4) 立地条件 三光山試験地では毎年下刈りと隔年下刈り処理区を設定、植栽前に地拵え、三室山試験地では一貫作業による伐採・植栽

試験実施項目

- 1) 植栽種苗の活着と初期成長の比較
直径(地際)、樹高、活着(健全状態)、被害(枯損、倒伏等)、TR比(堀取り調査)
- 2) 植栽種苗と雑草木の成長比較試験
コンテナ苗等と競合関係にある雑草木との成長量の比較、コンテナ苗等の生存率
- 3) コンテナ苗等の活用によるコスト低減効果
伐採・搬出から地拵え・植栽、下刈り等の工期調査および資材データ等の活用

三光山試験地の外観



植栽前のコンテナ苗(夏植え時)

